



社会福祉法人

熊本いのちの電話

KUMAMOTO INOCHINODENWA

通信 57号 平成29年4月号



仮設団地の支援活動に従事して ～いのちの電話に通じるもの～

木山仮設団地地域支え合いセンター 所長
熊本いのちの電話 研修委員

日 野 充 裕

昨年の熊本地震は誰にとっても忘れることのできない出来事だったと思います。4月14日の前震は熊本いのちの電話で担当しているグループ研修が終わった直後で、上通りのYMCAに娘を迎えに行き近くに車を止めている時でした。突然の揺れに何が起こったかわからず、目の前の肥後銀行のビルが横に激しく揺れていたことしか覚えていないくらいです。16日の本震の時は眠りについたばかりで、轟音と振動の中、目は覚めたもののベッドの上でなすすべもなく揺られ、茫然自失の状態で、その後停電の暗闇の中家族の安否を確認して一緒に家から出るのが精一杯でした。それから昼は家の片付けや仕事、夜は近所のスーパーの駐車場で車中泊が続くことになります。

これを読まれている皆さんも同じような体験をされておられると思います。中には家屋が全壊して中に閉じ込められた方、また近親者やご友人を亡くされた方もいらっしゃるでしょう。地震から1年が経とうとしていますが、多くの方の中には過去の出来事として記憶が薄れつつある方もあると思います。しかし、厳然として地震の被害からまだ立ち直れていない人たちが多くおられることを忘れてはなりません。

現在私は益城町にある木山仮設団地にて地域支え合いセンター（熊本YMCAが委託を受け運営）の職員

として働いています。ここは益城町でテクノ仮設団地に次いで多い220戸の住宅があり、約550名の方が生活されています。地震以来ほとんどの方が避難所でありかなり不便な生活をされてこられました。仮設住宅に移り自立に向けた生活を始めておられます。避難所では毎日の生活のことを考えるだけで精一杯であったものが、仮設住宅での生活では、今後の生活をどうするか、特に仮設住宅を出た後の生活をどうするかを考えなくてはなくなりました。そのことが大きな悩みとなっています。今は仮設団地の生活にも慣れてこられ、ある面快適さを覚えておられる方もありますが、仮設は2年で終わりという区切りがある中、仮設住宅を出た後の生活を考えるのは必須のことです。現在住宅の再建や改修がおわって、転居される方も出てきています。今後そのような方も多くなっていくでしょう。今後どのようなところに住むかは経済的な要因が大きく影響してきます。自宅の再建ができる人や、再建したくてもできないので災害公営住宅への入居を希望している人、まだ何も考えられない人など様々です。仮設からの退去に当たっては、自分で決めきれない人に対しては、世帯状況を踏まえて一緒に考えていく支援が必要となります。

そのためには日ごろから信頼関係を築いておくこと

通信57号 目次

巻頭言	P1	熊本地震いのちの電話の状況報告	P5	活動報告	P6
自殺予防講演会	P3	感謝報告	P5		

相談電話 096・353・4343

が重要です。住民の方々の話を傾聴していく姿勢は、いのちの電話で電話を受ける姿勢と同じだと思います。ただ違うのは傾聴だけでなく、具体的な支援につなげていかなければならないケースが発生するという事です。電話では聞いているだけで、具体的な支援ができないもどかしさがありますが、地域支え合いセンターの活動の中では、必要な場合には適切な支援へつなげていくことが要求されます。職員は社会福祉などの専門家ばかりではありません。また、いのちの電話の相談員のように計画的な訓練を受けてきたわけでもありません。仕事をする中で試行錯誤しながら住民と関係を作っていく、詳しく話を聞いていくことになります。もちろん私などがスーパーバイズは行っていますが、まさしくOJT（実践的研修）となります。住民の皆さんがかかえている問題は様々で、それに対応することが必要になり、提供できる豊富な情報を集めておかねばなりません。

仮設団地での支援は個別だけではなく、コミュニティづくりの支援というものもあります。同じ町ですので知っている人も多いのですが、知らない人同士でご近所づきあいを始めなければならないケースも多くあります。原則2年間という限られた期間になりますが、生活再建のためにはそのプロセスも大切になります。住民同士が交流を深め、良い環境の中で元気に次

の生活の場に移っていくことができるように、生活環境を整える支援が必要です。それがコミュニティづくりの支援となります。木山仮設団地には3つの自治会があり、それぞれ会長をはじめとする役員がおられますが、毎月全体の会合をもって、環境整備やイベント、その他課題等について話し合いを進めています。もちろんそこには支え合いセンターの職員として私も参加をしています。住民をいかに巻き込んでコミュニティづくりをしていくかという大きな課題はありますが、できることから少しずつ進めていければいいかなと考えています。主体は住民の皆さんですから、木山仮設団地を住みよい場所にしていこうという気持ちを支えていき、次に住むところでもコミュニティづくりに参加してもらえるようになることを期待しています。

仮設団地での支援の基本は、地震で被災されて住む場所を奪われた方々に寄り添っていくことにあります。いのちの電話と基本は同じです。傾聴から始まり、受容、共感に基づいています。地域支え合いセンターは被災した市町村にあり、その職員は日々各家庭を回りながら、安否確認やお話を聞くということを行っています。そのような地道な活動があることもぜひ覚えておいていただければと思います。



自殺予防講演会

言葉の力で子どもを育てる



教育実践研究家

菊池 省三 先生

H29年2月26日公開講演会

こんにちは。再びわき起こる拍手が、めちゃくちゃ嬉しいです。(拍手)ありがとうございます。以前、北海道の稚内という所に行きました。走っていたら、道路脇に地元の小学生が作ったと思われる標語がありました。「ほにゃらら世界で一番いい言葉」5文字です。はい、では近くの方と5文字は何か、5秒ほど雑談してください。折角ですから、聞いてみましょう。『ありがとう』はい、大正解です。世界で一番いい言葉が、そういった温かい言葉が拍手と共に教室に溢れる、そういった教室を願っておりました。拍手があふれて、温かい言葉が溢れて、笑顔が溢れる、そういった教室、そういった家庭、そういった職場、そういった地域、やっぱり素敵なんじゃないかなと思います。

33年間、教壇に立って、やっぱり、一番素敵な子どもたちの表情は、卒業式、いろんなことがあったけれど、未来に向かって、少しはにかみながら、希望に満ちた瞳で学校を巣立っていく、そのときの子どもの表情が、一番好きでした。

そして、こんな感じの教室が好きでしたね。温かい距離感、柔らかな目線、指先、誰に対しても誰からも。「黙って静かにキチッと座って聞きなさい」、「ほらそこ動くな」、というような、そういった授業スタイルではなくて、やっぱり温かい関係性の中だからこそ起こる対話的な授業を私は目指していました。

また、何をどうしゃべるかも大事だけれど、子どもたちは「今日の先生どうかな?」とか「私の先生どうかな?」、そして、「今日のお母さん、朝どうかな?」、「お父さん、どうかな?」と、見られています。見せています。意外とそこを忘れてしまい、ボーッとした感じで一日のスタートをきってしまう、そういったことって、あるような気がしますね。教えられました。朝は元気よく笑顔で。

一年に200カ所ぐらい、いろんな学校に訪ねて行きます。すると、この言葉はいいなと思うことに毎回出会います。鹿児島のある小学校に書がありました。いい言葉です。「喜んで登校、満足して下校」。学校を職場に替えても、いいですよ。行きたい学

校、帰りたい家庭、そして住みたい地域です。こういった世界を目指したいなと思います。

今、自分の外に責任、自己外責任の考え方や行動、態度でふるまう人が増えていると、よく言われますね。あの子がいるからとか、あの人がいるからとか、あの地域だからとか、自分の外に責任を押し付けるような。そうじゃないですね。自己内責任というような、考え方も当然大事になってくると思います。

「褒める達人協会」ってご存知ですか。「褒め達」って言います。その褒め達の方が以前お会いしたとき、サインにこういうことを書いてくださいました。「褒めるとは、価値を発見して伝える」こと、ないないと言っても、価値を発見してみないと、観察力がこっちにない、それを伝える価値、価値づけができていない、伝わりをしていない、なるほど、相手が悪いのではなくて、自分だと思って、この言葉をいただいて思いました。これも好きな言葉の一つです。「人間関係は鏡である。鏡は先に笑わない」。そうですね。いいですね。

何かを変えないと、いけない。何かを。「ほら黙って、静かに先生の言うこと聞きなさい。できてないでしょう。もう」いろんな子どもさんがいる。子どもの貧困、格差、本人ではどうしようもない大きなものを背負って学校に来ている。いろんな子がいる中で「黙って、静かにきちんとしなさい」ばかりでは、中にはそれに、はまらないで、6年間いても、1回も褒めてもらっていない子どももいるのかもしれないなと、思うことがあります。

北九州の小倉の方で担任した頃は、寝ている子も結構いて、片づけるとか、あまりなく、バラバラです。お互いに学び合おうという、そういうのはありません。大人に対する不満、不平、怒りみたいなものを持っているのかもしれないです。2年間、担任させていただきました。私はあまり梓にはめて、どうのこうのということよりも、いろんな子が教室の中にいるのだから、一人一人の“らしさ”が発揮できて、その上で一体感のある教室という集団を作ろうと思っていました。みんなが卒業式の前にダンスバトルをしたいということになり、自分たちでチームを作って、曲を決めて、休み時間に練習をしてやりました。最後に、「これはバトルだから、勝ち負けはあるけれど、私たちは特に気にしていませんでした。好きなことを、みんなの前で発表でき、卒業前のみんなのよい思い出になったら嬉しいです」と言いました。みんな変わりました。大人だなと思いました。

私は、見ている、観察力を振り絞って、いいところを見つけて、褒めて、認めて励ますというスタイルです。山間の学校でした。私、33年間教壇に立って2年が過ぎ、35年目ですが改めて、この2人の中学生に教えられた気がしました。教師や親が、その子の成長を願って叱る、愛はある、でも子どもは怒られたと同じようにしか取っていないケースが多いかもしれないということですね。先生方が叱って、子どもは、「また怒られた。何だ、こいつ」というように、叱るということが、どういうことなのかというこ



2017.02.26

とを、きちんと子どもたちに理解させておかないと、よかれと思って、叱れば叱るほど、子どもとの距離がどんどん離れていったり、バーンとぶつかって、はじけたり、はじかれるようになってしまうのかなと思います。ちょっと大げさな言い方をすると、コミュニケーション力が不十分だと、幸せになれないのかもしれない、かっこよくなれないのかもしれない。だから、1年間かけて、しっかりと挨拶から、返事から、あるいは自分の考えを述べる、ということ、頑張らしましょうね、という話をします。言葉に相手を感じる気持ちに乗せて使わないと、お互いが幸せにはならないのではないかと思います。だから、私は言葉を大事にするということ、心がけています。

こういうアンケート取りました。教室からなくしたい言葉、逆に、溢れさせたい言葉、多くの学校の、学年、学級、どこで採っても、おそらく、溢れさせたい言葉の1位は、ありがとうでした。教室の中で、あるいは家庭で、職場で、子ども、あるいは大人が「ありがとう」を一番溢れさせたいと言っています。さりげなく「ありがとう」が言える教室、学校、家庭、職場、地域であるというのは、素敵なことじゃないでしょうか。そういった学校だから「喜んで登校、満足して下校」になる。「行きたい学校、帰りたい家庭、住みたい地域」。ここ大事なんじゃないかなと、私は思いました。そういう言葉を大事にしようと思っています。

赤ペンは間違いを指摘して、修正するものではなくて、褒めて認めて励ますために入れようというふうに、私たちは考えてやっています。先生も褒めるのだけど、子どもたち同士も褒め合います。これ日本海新聞という地方紙、山陰の方の新聞に載っていました。毎日、一人の友達をみんなで褒める。その日の、その主人公の友達のよかったところ、頑張っていたところ、素敵なおところを褒め言葉にして、シャワーのように、その子にプレゼントをするという取り組みがあり、笑顔が教室の中に溢れています。

価値ある言葉が自分の中に植林されると、価値ある考え方や行動、生活態度、友達関係を作っていくようになるのではないかと思います。その逆の言葉があったら、その逆の生活、交友関係、考え方、行動、そういったものになってしまのではないかと思います。価値ある言葉を植林して、自分らしさを、それでいいのだという「らしさ」をみんなで育て合って、それができる、安心できる集団を作っていく中で、子どもたちはすくすく成長していくのかなと、あらためて思います。

今、いろいろなところにおじゃまして日々授業をさせていただいたり、先生方を中心とした大人の方との学びの場をいただいております。そういった中で、やっぱり大人も子どももいっしょだなと思うことがあります。1つ目、叱られるよりは、褒められた方が嬉しい。これ、大人も子どももいっしょだと思います。2つ目、好きな人とは話したいが、嫌いな人とは話したくない。よく学校の先生方と勉強させていただく中で、「うちの学級、発表者が少ない。あるいは、発表者に偏りがある、どうしたものでしょうか」ということが話題になります。発言する内容の理解や、発表の仕方がまだ十分に身に付いていないというものもあるでしょう。でも、一番の原因は教室中の関係性が薄いとい



うことではないかと思います。大人も子どももいっしょです。大人だって、嫌いな人とはしゃべろうとしないし、ましてや反対意見を言おうとはしない。だから、いい関係を作って、みんなで認めて褒めて盛り上がる取り組みをする中で、救っていくということが大切で、これは教室だけではなく、職場も地域も、家庭もだと思います。「自信が生まれるのは、安心できる場所、居場所がある。居場所があると感じると、子どもは自信を持つ」、ということを映画「ビリギャル」の主人公を育てられた先生はお話されていました。たった一人でいいから、「あなたのこと見ていますよ」ということを子どもが感じて居場所を感じ、そして、自信を持つと。ある意味、大人もいっしょじゃないかと思います。

最初は抵抗があっても練習すると殆どの子が上達する。コミュニケーション、褒める、認める、そういったものを私はスポーツとある意味同じように捉えられたらいいのではないかなと思います。スポーツはどんな種目であっても、トレーニングをすると少しずつ上達します。毎日、一日39回「ありがとう」を言うことで自然に、一番大切にしたい言葉が自分の口をついて出てくるようになると思います。9番目、読書をしたら、得をした気持ちになる。やっぱり人間はインプットしないと、いいものがアウトプットできないと思います。

コーチングの第一人者と言われている本間正人先生からいい言葉をいただきました。その言葉は「最終学歴ということ語るの、もう止めようじゃないか。最終学歴は基本的に更新できませんから。じゃあ、代わりに最新学習歴と言おうじゃないか。最新学習歴は常に更新し続けることができる」と、最終学歴を止めて、最新学歴と言おうじゃないか。とってもいい言葉だなと思いました。いろんな子どもさんがいます。自分が最新学習歴を更新し続けていなかったら、そういった子どもさんのいいところが見えずに、ぶつかる授業になってしまう。子どもを育てようと思えば、自分自身が最新学習歴を更新し続けて育っていかなければいけないということを私自身いつも戒めているところです。

はい、時間がきました。いろいろおしゃべりをさせていただいて、私のお話をさせていただいた中に、皆様の最新学習歴を、ほんの少しでも更新するようなものがあったら、ありがたい、嬉しいなと思っております。ご静聴ありがとうございました。

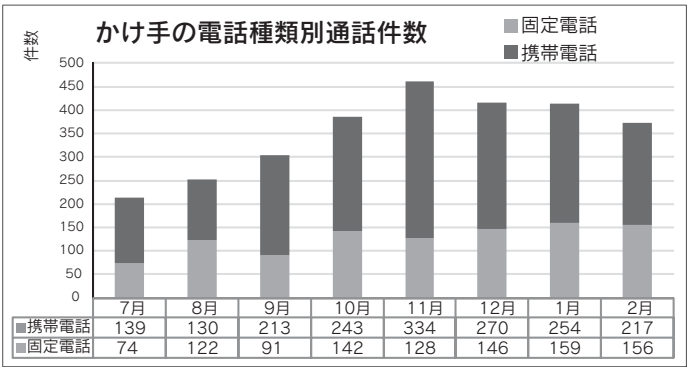
熊本地震 いのちの電話 (フリーダイヤル) の状況報告

早いもので熊本地震が発生して1年になります。熊本のいのちの電話は建物も相談員も被災し、電話相談を一時中断せざるを得なくなりましたが、チャイルド・ファンド・ジャパンのご支援と日本いのちの電話連盟のご指導、また九州、沖縄の7センター及び愛知、岐阜、三重、島根の各センターのご協力により、被災者のための「熊本地震いのちの電話」のフリーダイヤルを昨年7月に開設することができました。当初は昨年12月末で終了の予定でしたが、関係者のご理解ご協力により、今年の7月まで延長することとなりました。(7月以降の再延長については現在検討中です。)

「熊本地震いのちの電話」への月別の相談件数をグラフに示しました。12月まで増加し、その後少し減少傾向となっています。

相談内容は、生き甲斐の喪失、将来への不安、健康上の心配、家族や周りとの関係性、などの件数が多く深刻さも増してきています。

熊本の相談員の中には自らも被災して未だ生活の復興途上にある方が少なくありませんが、その状況にあっても、電話をかけてくる方たちに心を寄せて頑張っています。これからもご支援をよろしくお願いいたします。



感謝報告

ご支援ありがとうございます。

熊本のいのちの電話は多くの皆様に支えられています。
感謝をもってご報告させていただきます。

寄付感謝報告

(平成28年12月1日～29年3月21日)

法人・団体の部

(敬称略・順不同)

あつまるホールディングス 歩み法律事務所 インマヌエル熊本キリスト教会 オフィス ムジカ おむすび太郎 九州電機工業(株) 熊本白川教会	松村 尚美 西嶋 公一 高口 恵子 粟津 安和	熊本草葉町教会 熊本市キリスト教連合婦人会 熊本YWCA 公益財団法人 熊本善意銀行 埼玉いのちの電話 (株)SYSKEN 大熊本証券(株)	東京エレクトロン九州(株) 中村孝彦 税理士事務所 日本基督教団 錦ヶ丘教会 肥後銀行(株) 総合企画部 (株)みどりや (株)みどり印刷社 室園教会女性会
--	----------------------------------	--	--

個人の部

(敬称略・順不同)

池上恭代 池田菖子 植田晶子 稲留昌利 上原仁朗	悦江正治 崎弘子 鴛海明 岡本洋子 片岡隆治	河喜多一慶 鴻江友紀子 雑賀庸康 高杉ノリ子 立山明子	塚本照子 中村静代 濱田宏子 平野のり子 日野充裕	古荘紀代 福山清蔵 松村柳子 松田和香枝 松本千鶴子	モリトモキ 森下亮子 渡辺和文 匿名
--------------------------------------	------------------------------------	---	---------------------------------------	--	-----------------------------

※切手、お茶、コーヒー等もありがとうございました。感謝をもって、ご報告させていただきます。

募金式自販機寄付

(平成29年3月末日現在)

(敬称略・順不同)

(医)愛育会 福田病院 APパーク桜町 菊陽レディースクリニック 北熊本乗馬クラブ (株)九電工	九州電機工業(株) 九州ルーテル学院大学 (医)寿量会 機能病院 熊本市水の科学館 (医)孔子会 孔子の里	光進建設(株) 金剛(株) (株)SYSKEN (株)建吉組 (医)寺尾会 寺尾病院	(医)聖孝会 中村整形外科 西日本電材(株) 松尾建設(株) ルーテル学院高等学校 和みほいくえん
--	---	--	---

古本寄付

(平成28年12月1日～平成29年3月31日)

(敬称略・順不同)

上口加代子／小山和代／桑野 誠／東朋高等専修学校／野島麻紀子／小野澤友理／山添邦子／開 由美子

2016年度 後期講座修了式

2月28日熊本中央YMC Aに於いて「第33期電話相談員養成講座」の後期修了式が執り行われ、17名の方が臨まれました。

後期19回の講座は、カウンセリング及び心理臨床に関する小講義及びロールプレイ、一泊研修を含み総講座時間は65時間にもなります。修了生の方の顔は、ほほえみが溢れ、1年前の不安げなお顔はどこへやら、誇らしげに輝いていました。この後茶話会に移り、各テーブルでは話の花が咲き、ロールプレイプレイでへこんだことやメンバーの励ましで勇気づけられたこと。一泊研修での苦労話「むつかしかー」といいながらも、キラッとした目の輝きに頼もしさを感じました。

最後に「黄色いチューリップ」のプレゼントがあり、研修生として来年3月の相談員認定に向けて歩き始めました。



2017年度

養成講座

受講生募集

第34期熊本いのちの電話相談員養成講座の募集を開始しました

募集定員 ▶ 40名/23歳以上で上限は無し

講座日程 ▶ 1年次…毎週火曜日 午後6時30分～8時30分 (場所: 熊本YMC A中央センター、熊本市中央区新町1-3-8)

前期講座 2017年5月9日～9月12日 (講義、グループ体験)

後期講座 2017年10月3日～2018年3月20日 (講義、ロールプレイ、一泊研修)

2年次…電話担当実習 2018年4月～2019年3月 (電話担当、グループ研修)

受講料 ▶ 1年次…前期講座 1万5千円 (分割払いも可能です)

後期講座 1万5千円 (別途一泊研修費約8千円が必要です)

2年次…6千円 (グループ研修費用)

応募締切 ▶ 2017年4月28日 (金)

募集要項を準備しています。
事務局までお問い合わせください。

チャリティ公演のお知らせ

昨年の公演は中止となりましたが…

この夏、第18回チャリティ公演を開催いたします。
ご来場をお待ちしています。

輝け！よかもん大集合

2017年8月13日(日) 熊本市国際交流会館ホール

開演：13時30分、17時の2回公演

監修：中村花誠

出演：熊本県太鼓連盟／熊本県吟剣詩舞道総連盟／花童 他

チケットのご予約をお受けいたします

お一人 2000円

パンフレットへの広告掲載のご協力もお願い致します。

編集後記

熊本地震から一年が経過した。道路を通るトラックには「がんばろう！熊本！」の文字。復興が進んだところ、進むところ、遅々として進まないところ、見通しも難しいところ、様々。被災した建物の取り壊しも進み、空き地も目立つ。建物がなくなると景色が大きく変わってしまう。以前と全く同じ日常に戻ることはできないのかもしれないが、平常のところにみんなが戻って生活に安心と、にぎやかさが戻ることを日々祈る。熊本の復興の一助となれるよう相談電話をかけてこられる方々の為にこれからも寄り添っていきたい。

事務局日誌

平成28年12月～平成29年3月

28年12月	18日	熊本地震いのちの電話研修会 鹿児島センター
	20日	日本財団より 鈴木氏来局
	12月の取材	熊本日日新聞
29年 1月		『通信』56号発行
	15日	熊本いのちの電話 新年会
	31日	熊本地震いのちの電話研修会 沖縄センター
	1月の取材	NHK
2月	11～12日	第33期生養成講座一泊研修 阿蘇
	14日	平成29年度チャリティ公演打合せ
	19日	研修委員・リーダー合同全日研修
	22日	熊本地震いのちの電話合同会議 (23日 被災状況・仮設住宅視察)
	26日	自殺予防公開講演会
	28日	相談員養成講座 修了式
	2月の取材	NHK、共同通信社
3月	10～12日	相談員養成講座事前説明会
	30日	第53回理事会
	3月の取材	共同通信社

※毎月10日 フリーダイヤル(10日08:00～11日08:00まで)

※第1木曜日 定例研修委員会、第2金曜日 定例運営委員会



社会福祉法人 熊本いのちの電話

事務局

〒860-8691 熊本中央郵便局私書箱155号

TEL096-354-4343

発行人: 福田 桐 編集: 広報委員会

熊本いのちの電話

検索

赤い羽根共同募金配分金により作成したものです。